

旧庁舎跡地活用に関する説明会要旨

平成 23 年 3 月 23 日（水） 18:30 万世橋区民会館

区説明者：島崎部長・松本参事・野崎課長・古田副参事

出席者 17 名

質疑応答等

【跡地の用途について】

○淡路町の高齢者住宅に入居しているが、「住宅」（P 3）が 8 とあるのはなにか？

→・旧庁舎跡地の活用方法の意見公募結果であり、70 歳代から 4 件、50 歳代から 3 件、30 歳代から 1 件の意見が寄せられた。

○淡路のように、団らん室一部屋でも交流の場が必要ではないか。高齢者は目や耳が悪くなり、インターフォンや非常ボタンなども扱いが困難である。呼び鈴もランプ点滅が必要であり、非常時に風呂、トイレ、ベッドにあればいいと思うが。

→・議会の特別委員会でも住宅の用途について議論した。その結果、区民全体の特別な場所ということから、10 年 20 年特定の方が独占して使われるよりも、不特定多数の方が使われるものがよいということから、サポートセンターに選択肢が絞られた経緯がある。当然高齢者住宅等のニーズもあり、施策の中で配慮していかなければならないが、旧庁舎跡地でなくともよいという方向で考えている。

【九段坂病院について】

○大変結構な話だと思う。千代田区は大学病院には恵まれているが、救急医療、区民の緊急医療、あるいは産科・小児科など、区内の医療に不足している部分があり、それを補ってくれることになる。ただ、九段坂病院は病院経営として、今までは地代はなかったと思う。旧庁舎跡地に借地してきて、病院経営として成り立つのか？

→・病院経営は全国的に厳しい。自治体の病院でも赤字の所がある。ただ、現在の九段坂病院は黒字。土地代がかかっていない。また、建物が古く、減価償却が少額で済んでいる。旧庁舎跡地に移転してきたら、借地料を払うことになるし、新しい建物なので減価償却費も増えることになる。今後の経営プランについては、共済組合の方でも慎重に検討している。

・共済組合も全国的には自前の土地を持っており、最初はそういう所への移転を検討していた。ただ、千代田区内に残りたい、九段の周辺に残りたい、という病院の意向があった。旧庁舎跡地に移転してきても、赤字を出さずにギリギリのところでやっていくことになる。共済組合としても協議がまとまるようであれば、話を進めようということになった。

○病院経営の収支が悪くなると、この提案が成り立たなくなる。検証・評価をしっかりやらないといけない。

→・担保する仕組みづくりに留意していく。

【計画全般について】

○解体は区の負担でやるのか？平成23年、24年以降のスケジュールはどうなっているのか？

- ・解体は、区が責任をもって行う。千代田会館との渡り廊下などもあり、解体の設計をして、工事ということになる。設計・工事に1年程度、4～5億円を見込んでいる。
- ・順調に合意が取れた場合、解体と並行して、建物の設計に1年、その後、建築確認・工事に2年かかる。23年度に合意が取れたとしても、建物が使えるようになるのは26年度末、あるいは27年度初めになる。

○「サポートセンターの概要」の内容は、随分欲張っている。区役所で維持できるのか。旧練成中の例をとっても、レストランの料金は高く、屋上の区民菜園も月7千円と高い。一般事業者が入ると同様になる。リハビリなどの経費が高くなるという心配がある。

→・5つの機能のうち、

- ①相談機能は基本的に直営。ただ、24時間365日の体制については委託も含めてやり方を検討する。
- ②在宅ケア拠点については、九段坂病院にお願いすることで協議中。
- ③高齢者の活動拠点は、高齢者センターの広さを拡充するもの。管理運営は指定管理者にお願いする考え。
- ④人材育成は、ボランティアセンターや専門機関と連携を図り進めている所だが、今後高齢者の活動拠点と絡めて、本格的な指定管理者への移行を検討する。
- ⑤多世代交流拠点はスペース的なもので、もっと包括的にできないか、検討する。
- ・在宅ケア拠点は医療と介護の連携施設だが、そこを病院でやってもらうことになる。収支計画をたてて、大丈夫だろうという事で進めている。
- ・利用者の負担については、4つのサービスはいずれも医療保険・介護保険の対象になるので、保険点数に応じて一定の負担割合に基づくものになる。5機能のうち、相談機能は無料。多世代交流拠点のホールは有料だが、区民館と変わらないような料金設定にしていきたい。

○以前は区の健診で細かい所までしてもらえたが、今成人健診になって変わってきた。九段坂病院を活用して、人間ドック的な施設をつくって、民間のドックと同じレベルで区民に広くやってほしい。また、健診の過程で何か九段坂病院で対応できないようなものが見つかった場合、虎の門病院や東京医科歯科大学大病院に紹介してもらって受診できるような仕組みを取り込んでもらえないか？

- ・公務員を対象した人間ドックを既に実施しており、それを区民のためにも出来るようにしていく。紹介等が必要になれば、虎の門病院や東京医科歯科大学病院にもつなげる仕組みをつくっていきたい。また、メタボ対策である保健指導なども併せて考えている。

○サポートセンターの内容がまだ明確でない。24時間365日対応について

は、どこかに投げるということか？

→・24時間365日対応については指定管理者とは別だが、医療対応については病院と連携していこう、という事で議論している。委託するのか、専門の人材を雇うのかは、これから検討していく。

○24時間365日対応の実例はあるのか？

→・緊急時の相談にコールセンターで深夜にも対応する自治体は全国にある。今後も増えつつある。本計画では相談に加えて、現場での実際の対応を考えていく。

・緊急時や救急への対応となると、それなりの人材が必要になってくる。区の職員がずっといても空振りのことが多くなる。元々24時間稼働している病院と連携すれば、効率的になる。

○在宅ケアは九段坂病院でやるのね？

→・そういう事になる。

○多世代交流拠点は、ここでなくてもいいよね？

→・あの場所であるからこそ、多世代の方が交流できる場にしたい。高齢者から子育ての方まで交流できる場にしたい。

○なぜ九段坂病院なのか？病院4/5、サポートセンター1/5と、面積的に高サポより、病院側が大きい。また、病院が途中で破綻した時、どうするのか？

→・サポートセンターを設置するには医療機関の支援が必要。病院が出ていってしまったら、サポートセンターの機能は果たせない。破綻等を想定して土地の賃貸借契約の中で用途を制限していくことになる。共済組合が建物を手放すことになれば、売却に区の事前相談を要することを盛り込むことも考えられる。そうすることによって、類似の機能の所へ売却するか、区が買い取るか、できるようにしていく。

○象徴的な場所である旧庁舎跡地に高い建物を持ってくるのには疑問が残る。

3.11以降、防災拠点を考えていく必要が出てきた。病院だけを考えなくてもいい。

→・病院が健全に経営が続けられるように、経営母体からそれなりの資料を取り寄せて、破綻するというような事にならないように事前に折衝していく。

・一体開発ということも以前に話があったが、九段会館、千代田会館、それぞれの事情があり、それぞれの思惑がある中で、計画の中にすぐに取り込んでいくことは難しい。将来的には周辺の開発にも何らかの取組みを行う可能性がある。

・3.11以降の帰宅困難者対策、それに伴う医療も含めて、新たな対応が求められており、課題として受け止めている。災害医療の面でも病院が役立っていけるよう、共済組合との交渉を進めていく。帰宅困難者対策は区としても十分行っているが、想定していなかった新たな事態を受け止めて、新たな対応をしていきたい。